

1. 科目名 (単位数)	保育内容総論 (2 単位)	3. 科目番号	SS0T2411
2. 授業担当教員	太田 節子		SC0T2411
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	SJMP2130
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>保育者として保育内容を考える際、保育内容の5領域や子どもの活動に対する理解は重要である。しかし、子どもの実態に応じて保育を構想するためにはこれらの理解のみでは十分条件とはならない。これらに加えて、養護と教育が一体的に展開する保育、環境を通して行う保育、遊びによる総合的な保育といった一連の保育内容の展開に関する考え方への理解が深まることで、はじめて目の前の子どもの姿から具体的に保育を構想することが可能となる。本講義の目的はここにあり、子どもの姿から保育を構想していく際に必要な考え方を身につけることを目指す。</p>		
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園保育・教育要領に基づいた現代の保育の全体的な構造を理解し、説明できる。</li> <li>2. 保育の歴史の変遷について学び、保育の基本及び保育内容について「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連付けて説明できる。</li> <li>3. 子どもの生活や遊びの総合性を理解し、保育内容を領域別に指導するのではなく、相互関連性等を踏まえた総合的な指導の在り方を理解する。特に、各領域が発達を捉える視点であることを具体的に説明することができる。</li> <li>4. 子どもの発達の特性や発達過程を踏まえた観察や記録の観点を習得し、子ども理解を深める姿勢を身に付ける。</li> <li>5. 多様な保育展開について学び、子どもの育ちに相応しい保育を構想することができる。</li> <li>6. 現代社会における様々な保育課題を知り、常に保育者としての資質と専門性の向上に努める姿勢を身に付ける。</li> </ol>		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	受講生の学習状況に即して、レポート課題を提示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>教科書 渡邊英則、他編『保育内容総論』ミネルヴァ書房 『平成 29 年告示 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド社</p>		
11. 成績評価の規準と 評定の方法	<p>○成績評価の基準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業に対する参加態度 (授業に臨む姿勢、個別学習・グループ学習における課題への取り組み) は意欲的であったか。</li> <li>2. 提出物の期日は順守できたか、取り組みの内容は十分なものであったか。</li> <li>3. (試験) 授業を踏まえて学習目標に示された内容が定着していたか。(レポート) テーマに沿って分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業態度 50%</li> <li>2. 提出物とその内容 20%</li> <li>3. 期末試験もしくは期末レポート 30%</li> </ol>		
12. 受講生への メッセージ	<p>・「保育内容総論」用のノートと専用のファイル両方を準備して初回授業に臨むこと。 この科目は、子どもを捉える視点や保育内容について重要とされる事柄を学ぶ科目です。この科目を学習した後に現場での実習に臨むこととなりますので、実際の子どもの姿や保育を想定しながら学ぶ姿勢を心がけて下さい。</p>		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション —授業の目的、望まれる授業態度、「保育」と「保育内容」の意味を知る。—	事前学習	望ましい学習態度について、自分の考えをまとめる。
		事後学習	保育と保育内容の意味の違いを復習する。
第 2 回	5 領域の構造、内容の理解 —5 領域と保育内容総論の関係を保育の実際から理解する。—	事前学習	5 領域とは何かを調べておく。
		事後学習	5 領域の育ちと「5 領域を総合的に指導・援助する保育」の意味をまとめる。
第 3 回	子ども観と子ども理解	事前学習	自分の「子ども」についてのイメージを考える。
		事後学習	授業内容をふまえて、自分の「子ども観」を検証する。
第 4 回	子ども理解と保育内容・評価	事前学習	周囲で見かける子どもたちの姿を、自分の子ども観に照らして捉えてみる。
		事後学習	子ども理解と保育内容・評価の関係を復習する。
第 5 回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解 (1)	事前学習	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、それぞれの管轄省庁

	— 3つの文書の関係を知る。 —		から提示されているのかを調べておく。
		事後学習	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領それぞれの保育の基本的な考えを整理する。
第6回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解（2）	事前学習	幼稚園教育要領の第1章を読んでおく。
		事後学習	幼稚園教育要領の第1章のポイントをまとめる。
第7回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解（3）	事前学習	保育所保育指針の第1章を読んでおく。
		事後学習	保育所保育指針の第1章のポイントをまとめる。
第8回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解（4）	事前学習	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の第1章を読んでおく。
		事後学習	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の第1章のポイントをまとめる。
第9回	教育課程・保育の全体的な計画と、指導計画の意義、及び内容	事前学習	教育課程・保育の全体的な計画とは何かを調べておく。
		事後学習	指導計画を立てる際の留意点を復習する。
第10回	子ども主体の保育	事前学習	「主体性」の意味を調べておく。
		事後学習	子ども主体の保育についての留意点をまとめる。
第11回	環境の再構成（模擬保育）	事前学習	環境を通して行う保育について調べておく。
		事後学習	環境の再構成の意味や重要性をまとめる。
第12回	指導案（日案）作成の方法と留意点（1）	事前学習	指導計画のサンプルに目を通しておく。
		事後学習	指導案作成の留意点を復習する。
第13回	指導案（日案）作成の方法と留意点（2）	事前学習	前回作成した指導案を改善してみる。
		事後学習	指導案と実際の指導との関係や留意点を復習する。
第14回	個と集団の育ちを考える	事前学習	自分が個と集団についてどのような考えをもっているのかをまとめておく。
		事後学習	保育のなかでの個と集団の育ちの意味をまとめておく。
第15回	授業内容のまとめ	事前学習	今までの授業での疑問点をまとめておく。
		事後学習	授業での疑問点が解消されたかどうかを確認する。